

平成24年度新しい公共の場づくりのためのモデル事業

いわて文化支援ネットワーク通信

アシスト・なう

2号

発行日
平成24年9月1日

発行:特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター / 印刷:杜陵高速印刷株式会社

高層ビルの立ち並ぶ東京都新宿区、その谷間のたたずまい旧淀橋第三小学校の建物を利用して「芸能花伝舎」があります。8月11日(土)芸能花伝舎を会場に日本演出者協会主催「フェニックス・プロジェクト」が開催されました。3月11日の東日本大震災によって被災地のイベントがほぼ中止となり、劇場が使えなくなり公演を行うことができない、文化活動が停滞する中で、過酷な状況下にあった協会の呼びかけによって本事業は企画されました。

5回目の今回は岩手に焦点を当て、伝統芸能「虎舞」(大槌町)、久慈市在住のころむこうじさんが震災以降に書き上げた市民劇を東京都在住の出演者が朗読した「水族館狂詩曲」、そしていわて文化支援ネットワーク主催事業、朗読劇「12の贈り物」から「愛の記憶」「桃の花が咲く」の2作品、ほか宮沢賢治の詩の朗読が披露されました。そのほか被災地の今を伝える写真パネルの展示もあり、会場は炎天下にも関わらず多くの皆さんの熱気にあふれていました。



新宿でつながるーとーいーいーいー

東海林 浩英

被災地の舞台芸術支援のため昨年6月から東京で行われているフェニックス・プロジェクトの5回目のイベントとして8月11日に行われた「新宿でつながろう!東北」。ここでこの春から主に盛岡で上演されている朗読劇シリーズ「12の贈り物」の中から「愛の記憶」ほかを上演するあたりに、小生は舞台監督としてお手伝いに行ってきました。

会場の芸能花伝舎は、元はといえば小学校だった建物。廃校後に舞台芸術の振興の場として再活用されているユニークな場所です、初めて行ったのに懐かしさを感じられます。

今回は屋外で大槌の虎舞なども演じられ、また地元の大槌町内会からも模擬店が参加し、とても蒸し暑い日でしたが(幸か不幸か雨の予報が外れた)賑やかな催しになりました。

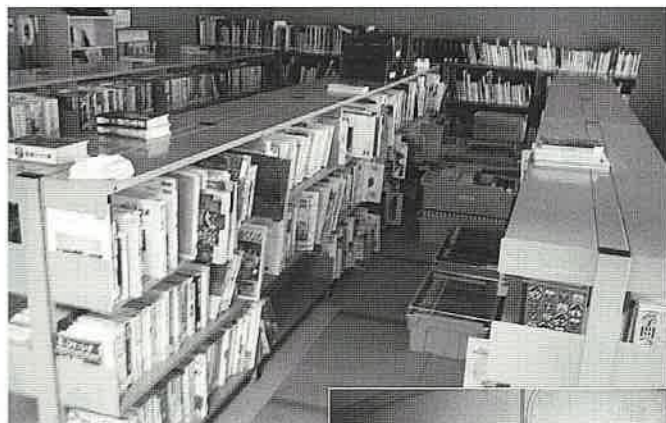
心配だった肝心の朗読劇の観客数。どれくらいお客様がみえるか不安でしたが、2回の上演で約100名のお客様が来場し、ほっとしました。内容についても概ね良い評価をいただき、これまで作ってきた朗読劇のスタイルが認められたことが嬉しく感じられました。この公演が新しいつながりを作ってくれたことを花伝舎の上空、ビルの谷間に小さく開けた青空を見ながら感謝した一日でした。

被災地リレートーク
「沿岸図書館事情について」
こむろ こうじ (久慈市)

震災から1年半が経とうとしてい
ます。今まで、被災した地域では『3・
11絵本プロジェクト』を初め、沢山の
方々から、読書環境の再生のための支
援をいただいております。
8月中旬、県北から順番に図書館を
見てきました。



野田村図書館は、建物としての復旧は完了し、現在はソフト面の復旧にシフト、見える形の復旧が進んでいます



大槌町は公民館の一角に仮の図書館を開設



宮古市田老は、市役所の分室の一角を使っています

このようにそれぞれ
の地区で、一歩ずつ前
進しているのが感じら
れますが、復旧の状態
にかなりの差が出てい
ます。

支援の側の人たちは、
自分の足で定期的に被災地を歩き、そ
れぞれの現状を把握し、必要な支援は
何かを感じる事が大切ではないかと
思いました。コミュニケーションを十
分にとりながら、それぞれの地域の
方々が自分たちの力で立ち上がろうと
するのを阻害することなく、共に進ん
でいくことが、これからの支援では、
より重要なことになってきていると、
改めて感じています。



陸前高田市では、市立図書館としては仮設のプレハブから移動図書館車で各地を回る状況となっています

「3・11絵本プロジェクトいわて」とは

IBBY (国際児童図書評議会) やJBBY (日本国際児童図書評議会) と深い関わりのある八幡平市在住の児童図書編集者、末盛千枝子さん(彫刻家・舟越保武の長女)を代表とし、東日本大震災直後に発足。国内はもとより世界中から寄付された絵本を被災地の子どもたちへ届ける活動をしています。

被災地で流失したピアノなどの支援を行う
楽器アシストに寄せられた感謝の声

☒はじめまして。私は、山田町船越の仮設住宅におります。長嶋と申します。このたびは、大変ご丁寧なお心遣いを頂き、誠にありがとうございます。

私たち家族は、みんな音楽が大好きで、ピアノを弾くことが毎日の楽しみでした。しかし、3月11日から生活が大きく変わってしまい、小学校一年生と二年生の二人の子供たちはピアノのレッスンも、練習もできない避難所生活を5カ月も送っておりました。私自身も音楽のない環境がとても寂しく、心晴れない日々でした。

そのような時、子供たちがお世話になっていた先生から支援のお話しを頂きました。そして仮設住宅に引っ越して間もなくピアノを届けてくださいました。子供たちはとても喜んでいました。

9月からピアノのレッスンも再開し、毎日の練習に使わせていただいております。皆様の温かいご支援に、家族一同感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。(山田町長嶋さん)

☒この度は電子ピアノのご支援本当にありがとうございます。今回の震災で私は家族と家をなくし、ピアノを始めとした大切なものを多く失いました。生まれて初めて経験したこの震災で、私は何をしようかというのかわかりませんでした。しかし、多くの人から励ましの言葉や支援物資などによって「一人じゃない」ということに改めて気づき、今まで生活してこることができました。そして今回、そのような高価な電子ピアノまで支援していただき感謝で胸がいっぱいです。私の大切なものの一つが戻ってきたように感じます。本当にありがとうございます。私は今回の震災で多くのものを失いましたが、得たものも多くありました。一番、私の中で大きな得たものは、やはり人と人のつながりに気づけたことだと思います。日本の方々のたくさんの支援、また日本だけでなく、外国からもたくさんの方々が私たちに手をさしのべてくれたことに、私は感謝してもしきれないくらいです。「本当に日本に生まれて良かった」とも感じました。毎日毎日暗いニュー

スばかりですが、今回の震災を通し、日本にはまだまだ温かい心を持った人々がいることに気づきました。私は今、看護師になるべく勉強に励んでいます。多くの人の力になり恩返しができるように、これからもがんばっていきたいと思います。この度は本当にありがとうございます。(宮古市山崎さん 高校三年)



(むらかみももかさん)

支援企業からの声

☒私としてはいままでの感想は、宮古地区はあまり問題ないようですが、山田地区とか大槌地区・鶴住居地区などは、ピアノ講師が避難しているため、レッスンを休止している生徒がかなり多いとのこと。去年大槌の先生から実家にある被災したピアノ(レッスン使用)の処分をたのまれました。住まいはもととも大槌の山手のほうにあり被災はまぬがれ、

そこにアップライトピアノがあり、そこではしばらくレッスンしていたそうです。ただ、実家にあったグランドピアノがだめになってしまい、それで先生には少し負担をおかけしましたけれど、ある楽器店を通じて中古グランドピアノ(新品同様)を安く仕入れ、仕入れ価格でお届けいたしました。今は、ほかの先生方の生徒もレッスンに通ってきているそうです。

また、文化支援ネットワーク様より楽器の購入ご依頼、本当に感謝致しております。地元のお店を利用しての支援ということで寺崎様からご連絡があり、言葉では言い表せないほど感激しました。店舗が水浸しになり掃除に半月かかり売上は全くなく、本当に感謝いたしました。

また、楽器のお届け先に電話すると、電話の奥で子供たちがやったーという声とか、お母さん・お父さんともとても喜んでいましたし、感謝しておりました。写真撮るときの笑顔(ちよっと緊張している写真もありましたが)とても感動いたしました。それもこれも文化支援ネットワーク様のご好意によるものです。ありがとうございました。(小成楽器 向口さん)

平成24年度岩手県文化振興基金助成事業 東日本大震災復興支援朗読舞台「12の贈り物」

「キサブロー、帰る」【入場無料】

作 大村 友貴美 演出 坂田 裕一

日時 9月15日(土) 14:00開演

会場 いわてアートサポートセンター風のスタジオ

出演 山口 ゆかり、東海林 千秋、竹澤 舜、菅原 康幸、菊池 与志和

ヴァイオリン 斎藤 弦

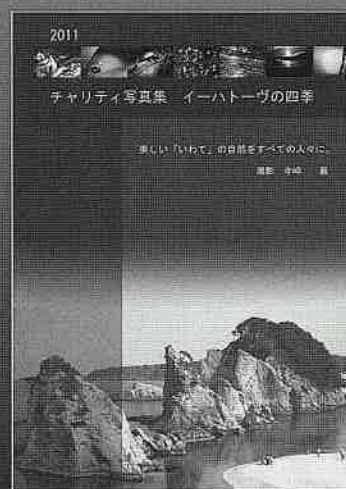
〈スタッフ〉 照明操作 橋本 佳織

チャリティ写真集「イーハトーヴの四季」の販売

A5版8ページのミニ写真集を、芸術鑑賞アシストプラン「いわてフィルハーモニー」の指揮者・寺崎巖（いわて文化支援ネットワーク）が「美しい岩手がふたたび輝くために」をテーマに、フォト心象スケッチとして作成しました。（撮影も寺崎巖）

1部500円以上で販売し、経費（1部200円）を差し引いた額が、いわて文化支援ネットワークの芸術鑑賞アシストプラン等の経費に充てられます。ぜひこの機会にお求めください。

（お問い合わせはいわてアートサポートセンターまで）



IASC 便り

盛岡はさんさ踊りも終わり、次は八幡のお祭り（9月13日〜16日）です。八幡のお祭りが終わると季節はもう秋です。

猛暑だったこの夏。今年の夏はたくさんイベント・演奏会・演劇などが行われました。

アートサポートセンターでも県内だけでなく、県外の劇団公演もあり興味深く楽しい1ヶ月でした。この勢いのまま、秋もいろいろな芸術にふれる機会があることを幸せに、切に願います。（永井）

編集後記

オリンピックで日本中が歓喜した夏がいく。もはや意識して語らなければ、震災の記憶は人々の脳裏から薄れつつあるように感じる。昨今、陸前高田の小さな旅館の壁に「父と暮せば」（故井上ひさし作品）舞台公演を予告する小さなチラシを見た。戦争の悲惨さを伝えるこの戯曲を書くことに20年を費やしたという。自分がある場所から、私たちはいつも語り部でありたいと思う。大切なのは続けること、やめないことであると信じて。

月一回発行のこの通信も、まず一年を一つの目標として続けていきたい。（U）

いわて文化支援ネットワーク

〒020-0878

岩手県盛岡市肴町4-20永卯ビル3F

NPO法人いわてアートサポートセンター内

☎019-604-9020

E-mail: arts@ictnet.ne.jp

http://lbsn.web.fc2.com/

■寄付金受付状況報告

(H24.8.22現在)

(7月24日)

メセナ協議会様(いわて楽器アシストプラン)

1,350,000円

(8月11日)

写真集売上

500円

●支援金振込先(振り込み手数料は負担願います)

■みずほ銀行 盛岡支店(普) 1190698

■ゆうちょ銀行 店名【八三八】(普) 0808732

※いずれも口座名:いわて文化支援ネットワーク

■岩手銀行 中ノ橋支店(普) 2044173

口座名:いわてアートサポートセンター文化支援

代表 瀬川君雄

現在の支援金総額

7,785,487円 (H24.8.20現在)

ご支援、ご協力ありがとうございます。